

「くりかえし漢字ドリル」の活用

福岡県行橋市の先生

一 はじめに

一年生にとっては、初めての漢字学習です。四月に入学して、少しずつひらがなを覚え、やっといろいろな言葉や短い文が書けるようになったかと思うと、漢字学習に入っていきます。

そこで、どの子にとっても、無理なく、楽しみも持ちながら、正しく漢字を覚えられる手助けになる「くりかえし漢字ドリル」を使うことが大事と考えました。

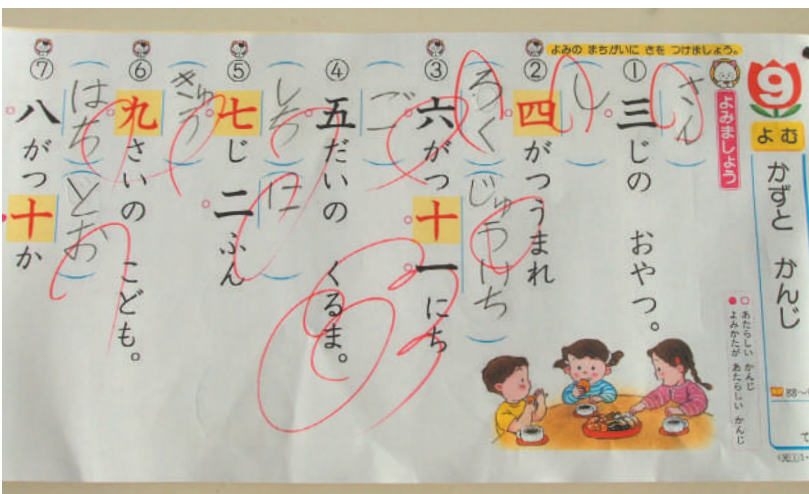
二 採用理由

大きな理由のひとつとしては、新出漢字の練習用のままの大きさがちょうどよいところ

です。新出漢字を初めて書くときには、書き順と漢字の形を意識させて書かせたいので、一回目は、色つきの書き順でなぞり、二回目は、最初の画だけ色つき、そして、自分で書かせるという設定も良さのひとつです。全部で四回練習できるのも、ほどよい回数と思えました。

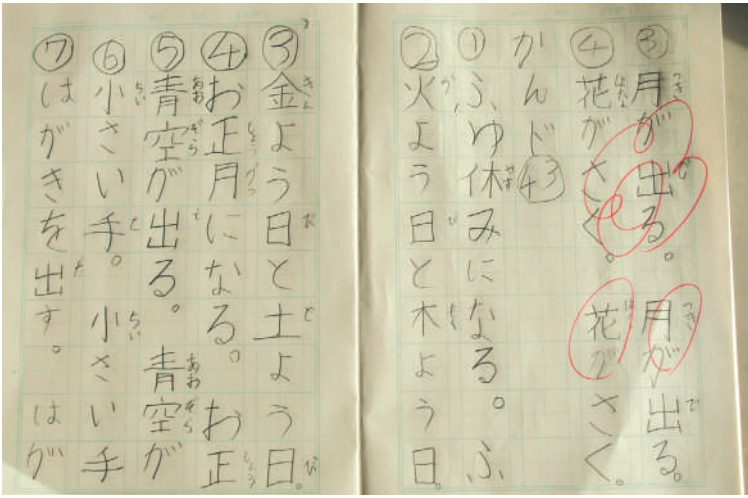
また「よみましよう」「かきましよう」の書き込むスペースが大きいので、書き込みをさせるとき、子どもたちの抵抗が少ないだろうと考えました。

二つ目の理由としては、開いたときに、全体的に見やすく、文字との空間が程良く見やすいところですね。イラストや書き順の色彩が視覚的にやさしい感じを与え、楽しく学習に取り組めると感じました。



三 使い方

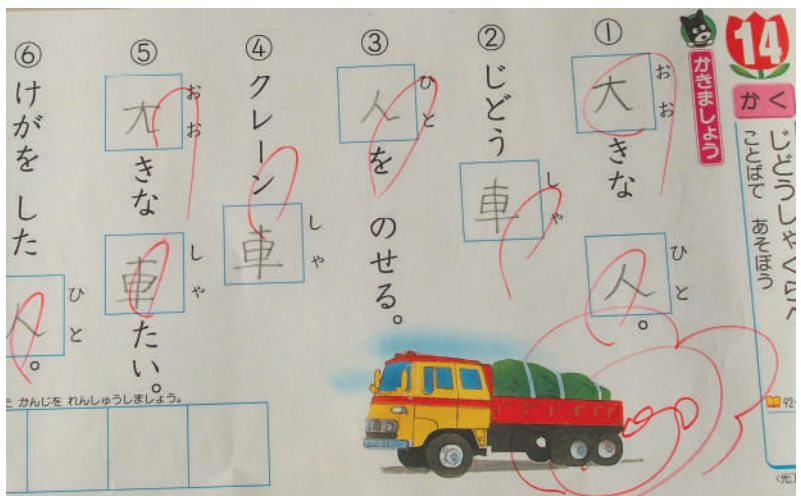
新しい単元に入る前に、「あたらしいかんじ」の習得から入ります。新しい漢字を板書し、一文字ずつ漢字と読み方を確かめます。読みがな、その漢字を使った言葉や文、でき方の順にみんなで読みます。でき方は、さし絵が



あるのでとてもわかりやすく、それをもとに補足するときもあります。読んだ後、空中でいっしょに指書きをします。それから、なぞり書きに入ります。「一、二、三…」と書き順をリズム良く唱え、子どもたちは、それに合わせて一文字ずつ書いていきます。四回のうち二回は、自分で、書き順、形に気をつけて書かなければならないので、一斉に書いたあとに、少し書き直しタイムを取ります。その間に、机間巡視をして、一人ひとり丸つけをしていきます。

新しい漢字の書き込みをした後は、「よみましよう」「かきましよう」の七問を写し書きます。

ノートは、市販のものを使っていますが、「よみましよう」「かきましよう」をやる時には、漢字をよく見て視写するメソッドに指導しています。また、一問ずつ一行に、同じ言葉や文をくり返して書かせるようにしています。「かきましよう」では、読みがなを先に書かせて、後から漢字を書くように指導しているので、子どもたちは正しく覚えて書けるかどうか確かめられます。また、苦手な子どもも、ドリルの表裏が答えになっているので、わからないときは、



見て書くことができるため抵抗も少なくなてみます。

ノートを使い始めたときは時間がかかりましたが、くり返して指導していくうちに、正しく、早く書けるようになりました。一問でも一行に二、三回同じ漢字を書くので、また一度の練習でもくり返していることに



なりません。何度かノート練習した後は、書き込みをさせています。

また、時折、クイズ形式や、書き順などの書き込みのページがあるので、少しの時間があるときに活用しています。子どもたちも、そのときはとてもリラックスした雰囲気です、楽しそうに書き込みをしています。

とにかく、漢字を覚えるには、何度も何度

も読んだり、書いたりする積み重ねが大切です。この「くりかえし漢字ドリル」は、まさにぴったりです。

四 漢字カードROMの活用

今回、このROMが付いていたので、新出漢字カードを活用し、とても重宝しています。

新しい単元に入る少し前から、印刷して、教室の見やすいところに掲示しています。日常生活の中で、何気なく目にしながら、漢字に慣れ親しむためです。

以前は、一文字ずつ自分で書いたものを使っていました。今はこれがあるので、とても助かっています。

そして、掲示するだけでなく、より有効に使うため、毎日読ませることにしました。「朝の会」の一項目に、「朝の勉強」と位置づけ、そこで読ませています。日直が一文字ずつ指さし読み、続けてみんなで声をそろえて読むというものです。日直になった子どもは、張り切って指さし、ほかの子どもたちも大きな声を出すので、朝から活気を出させることも効果があります。



五 終わりに

わたしたちの生活の中で、漢字を読んだり、書いたりすることは、切っても切り離せないものです。学校での学習ですべての漢字を習うわけではありません。しかし、学校で学習する漢字を少しでも定着させ、進んで漢字を使っていこうとする姿勢を持たせることが大切だと思います。

(22年度までの教材を使った実践例です。)